

投稿年月日	令和3年6月22日	投稿者	市外在住 30代 男性
ご意見・ご提案内容	●貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。 多くの職場で、男性の茶髪（おしゃれ）にはハードルが高いと感じます。一方で女性は、身だしなみにシビアな公務員や医療従事者、金融や保険会社の社員でも染めている人をよく見かけます。 染めた髪は、光加減で目立つこともあります。茶髪に対するハードルの高さは、男女で異ならないだろうか？ ●「自分のため」に行く“おしゃれ”と、「他人のため」に行く“身だしなみ”は混同されやすいと思います。おしゃれは相手も共感するとは限らない。例えばタトゥーや腰パンを嫌悪する人は多いです。 茶髪は男女とも個人的な“おしゃれ”のための行為ですが、以前は社会人の“身だしなみ”として男女を問わず NG が普通でした。今も就活では黒髪にする男女は多く、茶髪に「マイナスの印象を受ける人」はいると思います。 ●そして近年、「ジェンダー平等」という言葉をよく耳にします。最近だと東京五輪パラ組織委員会の橋本聖子会長が口にしていました。国連でも SDGs（持続可能な開発目標）の項目に掲げています。 社会的、文化的に形成された性別を“ジェンダー”といい、男女共同参画社会は「ジェンダー平等」な社会です。「女性はおしゃれするもの」「男性はちゃらちゃらするな」といった“ジェンダーバイアス”があり、茶髪へのハードルの高さが男女で異なっているのではないのでしょうか？ ●以前は「男性は仕事、女性は家事・育児」が当然でしたが、今では働く女性は“男性と同じ待遇”を求めています。「職場のおしゃれ・身だしなみ」もジェンダー平等の視点から見てほしいのです。 これは個人の問題より「社会の問題」と捉えてほしい。特に行政、教育、医療、福祉、客商売などに携わる人は、「官民を問わず」考えてほしいと思います。 お手数ですが、男女共同参画の推進や啓発、職員研修などの際に、継続して注目していただきたいと思います。宜しくお願い致します。		
回答	ご意見をお寄せいただきありがとうございます。 男女共同参画社会、個人の人権尊重の実現には、個々の個性の表現を社会が受け入れ、かつ社会が求める個々の姿がバランス良く保たれ、その時代に応じ互いの関係が維持されていくことが大事だと考えます。 制度上は、少しずつ整いつつありますが、個々の考えは、これまでの慣習や性別による役割分担意識が残っているのが現状です。関係機関のご協力を得ながら改善するよう啓発活動を通して推進してまいります。		
担当課	市民課		